

第9回 小笠原諸島固有生態系回復

ボランティニア in 母島

2011/11/8-13

祝 世界自然遺産登録



主催

林野庁関東森林管理局東京事務所
小笠原諸島森林生態系保全センター
小笠原母島観光協会



レインボーブリッジをあとに父島へ出航。



飛行機が着水、父島到着が遅れる。



父島から母島へ向かう途中に見える「ハートロック」



母島の皆さん、お世話になりました、来年また来ます。



父島を後に「おがさわら丸」で東京へ。島民が船で見送り。



船内説明、小笠原のことを事前学習。



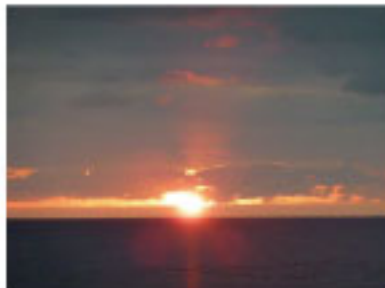
父島二見港、25時間は長かった。



母島到着＝竹芝を出て29時間



母島観光協会の大日方さんが、海に飛び込んで見送り。



おがさわら丸から見た「日の出」、13日6:05分。



11月9日、9:26分賀島列島付近、あと約2時間で父島到着。



「ゆり丸」で母島へ



二見港に止まるおがさわら丸。「おが丸」はでかい。



父島のみなさんさようなら。思い出がたくさんできました。



自然遺産の島から東京のビル街へ。この変化が現実。

5班に分かれて駆除作業

(2011年11月10日、柔の木山国有林)

1班 (メグロ班)



2班 (ノスリ班)



3班 (シジミ班)



4班 (ヒワ班)



過去に伐倒や巻き枯らしを行ったアカギの萌芽など。生命力がすごい。



5班 (ハト班)



アカギの駆除(小径木の伐倒・雑樹の抜き取り等)を実施

初めての方は、急斜面で足を踏ん張っての出来ない作業でした、お疲れ様～

ベテランの方は、「マイ道具」を持参して、手慣れた駆除作業でした、お疲れ様～



1班_作業



2班_作業



3班_作業



4班_作業



5班_作業



駆除実演_巻き枯らし・薬剤処理



作業開始前の星野保全センター所長あいさつ・説明



藤田保全管理指導官のアカギや入山の注意などの説明



「準備体操」で体をほぐす。怪我をしないよう注意しよう。



早川氏の母鳥のお話し



種子や外来ブラナリア侵入防止のための靴底の泥落とし。このあと酢のスプレーも。



野鳥のために置いてある、人工の水飲み場。

アカギを材料にした著作



母島の動植物_固有種



シマホルトノキの根が板根(板状の根)化したもの



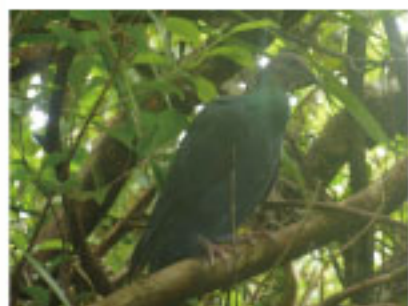
タコヅルの群生地と実



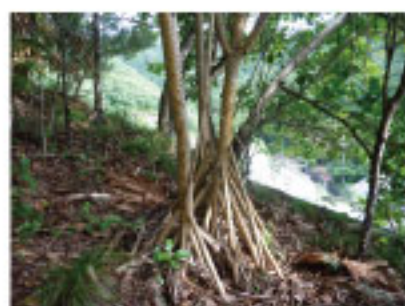
オガサワラオカモノアラガイ



マルハチ(中央)



乳房山にて「アカガシラカラスバト」と遭遇



タコノキ



上=乳房山から
沖港を臨む
下=乳房山から
石門を臨む



世界遺産_ロゴマーク

島民交流会



参加スタッフ

東京事務所

安孫子浩(自然遺産保全調整官)
山口雅史(東京事務所連絡調整官)

小笠原母島観光協会

大日方古彦

小笠原諸島森林生態系
保全センター等

星野良二(保全センター所長)
藤田富二(生態系管理指導官)
川添 貢(生態系管理指導官)
柳下英樹(総合事務所固有林課長)

母島現地スタッフ

早川 保
星 善男
茂木雄二
葉山佳代